

平成26年度学校自己評価システムシート（さいたま市立大宮北高等学校）

目指す学校像	「自主・自律・創造」の校訓のもと、生徒の「生きる力」を育み、自らの「志」に向かって努力し、生涯にわたって社会に貢献できる人材を育成する。
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 主体的な学習態度を育てるとともに授業の質を向上させ、確かな学力を身に付けさせる。 理数科教育の推進を起点とし生徒の「志」を育み、一人ひとりの第一志望の進路実現を支援する。 北高生としての品格を高め、健全な心身と豊かな人間性を育む。 地域から信頼される学校づくりを推進すると共に、国際社会へ開かれた学校へと発展させる。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	
学校関係者	5名
生徒	4名
事務局(教職員)	8名

年度目標		年度評価						
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>○授業時間確保とメリハリのある学校生活を送らせるため、学校行事の精選を行った。生徒は、静粛に授業を受けているものの、積極的な質問・発言が乏しい。また、家庭学習時間は、学年により差はあるが毎日2時間以上勉強する生徒は3割に満たない。生徒に、授業内容と目的を明確に示して主体的な学習を推進させる。</p> <p>自習室を整備し、3年生を中心に積極的な利用が見られるようになった。さらに環境整備を進め、自学力の育成に取り組む。</p> <p>○授業満足度は、生徒68%保護者49%である。教員一人ひとりが授業改善を図ると共に、全職員が一丸となって、互いに授業の質を高めあう必要がある。</p>	生徒の積極的、主体的な学習習慣の確立	<ol style="list-style-type: none"> シラバス等を活用し、授業内容の目的と到達目標を明示し、生徒に具体的目標に沿った学習計画を立て取組むよう指導する。 各教科で週末課題等を適切に指示する。 勉強マラソンを学校全体の取組とし実践し、自学力の向上を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 各授業の目標等を踏まえた学習計画を作り、主体的に学習したとする生徒が8割以上であったか。 勉強マラソンを年4回実施したか。また、生徒は積極的に参加し自学できたか。 1・2 家庭等学習時間が学年の数+1時間以上の生徒が半数を超えたか。 	<ol style="list-style-type: none"> 各教科が複数回の研究授業を実施したか。 授業研修会に、全員が年1回以上参加したか。 授業アンケートを複数回実施し、要望等についてのコメントと授業改善内容を生徒に提示できたか。 「教えて考えさせる授業」の研究推進者が中心となり実践内容をまとめ、全教員が共有できたか。 1~4 生徒、保護者の授業満足度が、前年比10%アップしたか。 	<p>勉強マラソンでは、生徒が自主的に学習内容と時間の使い方を考え学習に臨む。これにより積極的・主体的な学習習慣を身に付けることができる。また、生徒が互いに支え合って集中した学習をする雰囲気づくりに有効である。勉強マラソンは4回実施して、参加者は次第に増加し全校の3分の1を超え、学校全体の自学力が向上している。時間の使い方や計画的な学習の点で、生徒からも好評であり、評価項目は達成されつつある。</p> <p>東京大学市川教授の指導の下「教えて考えさせる授業」の研究推進校として、授業改善による教育力向上を図った。本校会場に開催した研究協議会では、埼玉県内と他県の教員も合わせて100名以上の参加があった。本校の5教科の教員6名が研究授業を実施し、協議には本校の全教員が参加した。評価項目の内容はほぼ達成されている。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> さらに学習意識を高め、学習スタイルを確立する。 勉強マラソンの参加者を大きく増やす。 「教えて考えさせる授業」研究推進校2年目として、一層授業研究を進め、深化させる。 授業アンケートを効果的に実施・活用する。
2	<p>○理数科がスタートしたところである。校内での理数科教育、大学・研究機関との連携、他校とのネットワーク行事などを体験させ、学習・研究意識や進学意識を向上させる。これらの行事を普通科の生徒にもオープンにし、全校生徒の知的好奇心を刺激しながら、将来への高い志を育成する取組へと発展させていかなければならない。</p> <p>○進路指導に関する保護者満足度は52%である。また、入学時には多くの生徒が国公立大学を希望しているが、ここ数年は、国立大学への進学者は十数名にとどまっている。進路指導部が中心となり、学年や教科との有機的な取組を強化し、生徒の第一志望の進路実現に向け全力を尽くす。</p>	理数科教育の推進とそれによる学校全体の進路意識の高揚	<ol style="list-style-type: none"> サタデースペシャル、SPP等高度な理数体験や、科学の甲子園、サイエンスフェアなどの外部行事に参加させる。 理数科ネットワークにより、高い意識を持った他校の生徒と交流させる。 各イベントへの普通科生徒の参加を促す。 保護者に理数科行事への参加を促す。 SSH採択に向け積極的に理数教育に取り組んだか。 	<ol style="list-style-type: none"> 科学的な興味関心が高まったとする生徒が90%を超えたか。 理数科ネットワーク事業を実施できたか。 サタデースペシャルに平均30名以上の普通科生徒が参加したか。 各サタデースペシャルについて、保護者に参加案内を行ったか。適宜理科通信を発行したか。 SSH採択に向け積極的に理数教育に取り組んだか。 	<p>理化学研究所訪問やサタデースペシャルのアドバイザー講義など、最先端の科学に触れる機会を設定した。また、SPPによる埼玉大学での研究活動や、県内他校理数科との日本科学未来館での合同研修など、生徒の主体的な学習活動を進めた。アドバイザー講義や勉強マラソン等には普通科生徒も参加し、各行事での生徒アンケートのほとんどで理数や進路の意識の高まりが回答された。活動については、ホームページや理科通信(5号まで発行)等で情報を発信している。</p> <p>国公立大学への進学を念頭に、平素での補習や長期休業中の補習、個別面談や三者面談の充実を図り、計画的に実施した。3年生3学期は、進路希望別の授業を設定し、進路実現と、卒業後に必要となる資質の向上を図った。概ね評価項目は達成できているが、家庭との連携をさらに強めたい。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の取組を精査、より質の高い取組を設定する。 理数科ネットワーク交流事業等を積極的に展開する 普通科に積極的な学習の機会を提供し、全校あげた学習への意識高揚をはかる。 継続、計画的な進路指導体制で、第一志望校への合格者を増やす。 	
3	<p>○服装の重点指導などにより、学校の雰囲気は大きく改善されたが、生徒指導に関する保護者満足度は、68%である。教員の同一歩調によるきめ細かな指導が求められる。また、整容指導や遅刻指導で規範意識を、交通指導で安全意識を向上させる。</p> <p>○部活動の加入率は87%(昨年6月)である。部活動についての保護者満足度は66%である。学習との両立を図りながら、「本気の勉強、本気の部活」を生徒に求めなければならない。学校生活全般を通して、生徒同士が支え高めあう関係を構築させる。</p>	安全安心な学習環境の整備	<ol style="list-style-type: none"> 教員の同一歩調に基づいた生徒指導を実施し、生徒の規範意識の向上を図る。 スクアードストリート交通安全教室などを実施し、交通ルールを遵守することの大切さを体感させる。 ネット関係や薬物などでトラブルに遭わないための教室等を実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> 年間を通じて、立哨・交通指導を計画的に実施し、服装規定の遵守と遅刻者減少につながったか。 生徒の交通安全意識が高まり、交通事故件数が0となったか。 様々な青少年課題に対応する研修会を、効果的に実施できたか。 1~3 保護者の満足度が80%を超えたか。 	<p>立哨指導、交通指導の定期的な実施や、スクアードストリート(1月)の実施などにより、生徒の安心・安全確保の意識を高めることができた。特にスクアードストリートは生徒の意識が高まったと、高評価であった。年間を通して、軽微な交通事故が数件報告されたが、大きな事故等はなかった。</p> <p>ネット被害を受けないための生徒向け講習会など。生徒の安全を守る取組を実施することができた。保護者の満足度は7割を超えている。</p> <p>部活動を奨励し、生徒個人に前向きな姿勢を持たせると同時に、集団行動を通して協調性や思いやりの心も養っている。1年生では9割を超える部活動加入率など、活発な活動が行われている。さらに、人権教育後援会等の取組により、豊かな心を育んだ。また、複数のスクールカウンセラー配置など、教育相談体制も整備され、システムとして活用できた。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣、安全な環境についてさらに生徒の意識を高め、教育活動の土台を強固なものとする。 本気の勉強、本気の部活動、本気の行事のメリハリある高校生活を推進する。 自分も他者も大切にできる豊かな心を養う。 	
4	<p>○平成25年度は、学校説明会に約1600名の中学生が参加、HPアクセス数は一日平均350件であった。教育活動の内容をより積極的に発信し、地域に一層理解を深めてもらうと同時に、地域の中学生に本校教育の素晴らしさを感じさせ、高い志を持つ志望者を増加させる。</p> <p>○時代の要請や社会の変化に対応できる学校づくりを目指し、平成26年度入学生より、海外修学旅行を実施することとした。さらに、国際社会へ開かれた学校づくりを推進し、タフなグローバル人材を輩出する取組を実施する。</p>	教育活動内容の積極的発信	<ol style="list-style-type: none"> 全職員での中学校訪問のみならず、中学校教員や塾関係者対象の説明会を実施する 小学校、中学校との連携を進める。 HPと学校案内パンフレットを改善して、教育活動の積極的PRにつなげる。 学校説明会の内容を充実させると共に、理数科体験授業を実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> 中学校、塾関係者等への積極的な広報活動が実施できたか。 小・中学校へのアウトリーチ活動を実施したか。 学校案内パンフレット等を刷新できたか。 説明会参加者の満足度が90%以上だったか。 1~4 学校説明会参加者数が2000名を超えたか。 1~4 志願倍率が、各科前年比10%増加したか。 	<p>中学校や塾への訪問や説明会への実施のほか、商業施設を活用した「大宮北高フェスタ」等の新しい取組も実施し、広報活動を積極的に展開した。学校説明会参加者は、1700名を超え、満足度も8割を超えた。小中学校へのアウトリーチ活動「サイエンス夢プロジェクト」を実施した。対象の手中学生からも本校生徒からも大変好評であった。臨時1学級増にもかかわらず、昨年並みの志願倍率を維持できた。</p> <p>オーストラリア姉妹校との交流事業として、派遣と受入れを予定通り実施し、生徒からも、家庭からも好評であった。サタデースペシャルの「科学英語入門講座」は普通科文系の生徒の参加もあり、役立つ好評であった。理数科は、海外サイエンス研修を3月に実施する。これらの行事を始め、グローバル化の積極的活動を行った。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 市の学校理数科教育の拠点の役割をさらに果たす。 地域への情報発信をより積極的に実施する。それにより、本校で学びたい生徒を増やす。 グローバル化に係る学習機会・行事を充実させる。 	

学校関係者評価	
実施日平成27年2月13日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> 勉強マラソン等生徒に主体的に学ばせる方法はよいと思う。 生徒の学習方法はもちろん、先生方の授業の質を高めるための取組を進めることはよいと思う。 今後とも、生徒の学習を支援する体制を強めてもらいたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 理数科1年目で、いろいろな取組を進めていることがよくわかった。各機関との連携も大変だっただろうと思う。 この1年間、とても忙しくてはじめ目が回りそうだったけれど、だんだんと慣れてきて、いろいろな体験が楽しくなってきた。(理数科生徒) 理数科行事が中心だが、今後は普通科にまで大きく波及して欲しい。
	<ul style="list-style-type: none"> 駅などでの様子を見ても、生徒が落ち着いてきていることがよくわかる。服装は勿論、登校の様子などでも良識ある行動をとっている者がほとんどである。 部活動や生徒会活動で、協力していけることがあればどんどん申し出てもらいたい。 社会のリーダーとして、人の気持ちかわかる人材に育って欲しい。
	<ul style="list-style-type: none"> 商業施設での取組など、新しいことに挑戦し、地域に学校の活動を知ってもらうことは大事である。卒業生も多く、高校時代を懐かしがる方も多く、アピールとしては良い。 生徒が地域の後輩に、勉強の喜びを教える取組は、小中高のつながりを深める観点からもよい。積極的に進めて欲しい。 海外修学旅行など、さらにグローバル化を意識した行事があり、楽しみである。